

# 森下さちこ ニュース

2006年3月号



## ＜新年度予算の特徴＞

### 子育て支援

子育て支援と銘打って、児童手当の小学校6年生までの拡大、子供連れの来庁者に子供広場を提供する、西山東保育所と西山東幼稚園を幼保一体型施設として建設する、放課後健全育成事業(若竹学級)の拡充等が計上されています。

放課後健全育成事業についていえば、3ヶ所拡充したことは評価できるものの、すでに空き教室がなく必要がありながら入れない子供がいることへの解決がほとんど図られていません。周辺の公共施設を利用すると言うなら計画を明確に示すべきです。

日常生活用具の給付、移動支援事業、地域活動支援センター事業などとなっていますが、サービスの範囲や利用料の有無など詳細はこれからです。

＜よりよい制度目ざして＞  
みなさんの要望が反映される中身にするためにまだまだできることがたくさんあります。市へ要望や提言をしてより良いものにしていきましょう。

## 《3月の行事》

### ☆つながり文化祭

5日(日)午前10時～県立体育館

### ☆重税反対全国統一行動

11日(土)午後1時～県民文化会館

### ☆西山東幼稚園園式

25日(土)午前9時30分より

### ☆きのくに9条まつり

26日(日)午前11時より長町公園

《認定の申請について》  
現在は支援費事業として福祉サービスが提供されていますが、4月からは1～6までの区分を認定するために申請をしなければなりません。市は申請を受けると市の認定調査員が訪問し106項目についての調査をします。その調査に基づいてコンピュータが一時判定した後、審査会で二次判定し障害程度区分が認定されます。自立支援法に基づいた福祉サービスは

《地域生活支援事業》  
また、「地域生活支援事業」という市町村が独自の裁量で行う事業があり内容は相談支援事業、コミュニケーション支援、

寒さが厳しかった冬も終わり三寒四温の今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。節分、立春が過ぎ春はそこまで来ています。春といえはすでに2・3月議会が始まっていますが、2005年度の最終補正と2006年度1年間の予算の2つを審議する長丁場の議会となります。格差が広がる社会情勢の中、最後の砦としての地方自治体(市)の役割が問われています。議会ですっかり声をあげがばります。傍聴にぜひお越しください。

和歌山市鳴神 1145-6 TEL:474-6556



## どう変わる? 自立支援法

### 4月から区分認定が始まります

多くの障害のある人々が反対していたにもかかわらず通ってしまっただけ「自立支援法」に基づいて、この4月からさまざまなお金が変わります。

### 《利用料と軽減措置》

今年10月から提供されることとなります。

最も心配されている10%の利用料については、関係者の粘り強い取り組みによって不十分

ではあります。軽減措置があります。低所得者減免や法人減免などその中身は多岐に渡り非常に細かい内容なので分かりにくいものとなっています。個別に相談されることをお勧めします。

## こんにちは! 藤井健太郎です



2005年度の最終補正予算の審議が行われました。

198億円の減額がされ、一般会計の総額を5077億円とします。減額の主なものは、県が実施している中小企業向け融資制度の貸付で、予定していたより伸びず177億円を減額します。

20種類の融資メニューがありますが、利用の全くないものもあり、今年の1月末までの実績は4751件520億円となっています。

昨年9月議会で、人権研究所の古文書編集への不正な公金支出問題が明らかになりました。県は、実際に購入していない書類やビデオ購入を名目に445万円を支出していました。これについては県に返還されましたが、県は改めて同額を補助する予算を提案しましたが、和歌山市も補助金を出しており、市に提出された事業報告では県は586万円補助したことになっています。

不透明な予算には反対しました。



森下せつ子奮闘中

安心して住める街づくりのために

一部民間委託が決まった

加納浄水場視察

2月20日、後議員と小藪事務局長とともに加納浄水場へ行ってきました。

先の12月議会で提案された加納浄水場の運転管理を民間へまかすということについては、市民の命に関わる水を直接作っているところであること、市内全体の水の60%が加納浄水場で作られていること、だからこそ市の職員がしっかりと安全管理に責任を負い必要な技術は継承されるべきであることなどを主張し共産党は反対しました。

しかし、残念ながら賛成多数で可決されてしまいました。この民間委託に向けての引き継ぎを兼ねた研修が22日から始まるということでした。

たので、直前に視察させてもらうことにしました。



紀ノ川の水(原水)を施設に取り込んできれいにしてみなさんの家まで送っているわけですが、飲める水になるまでにはいろいろな工程を積み重ねていきます。濁った水や赤水(管のさびが原因)を出さないための工夫や監視などの努力がしのばれました。特に天候や季節の変化による温度差に影響を受けやすい水はpH調整が欠かせません。機械化が進んだとはいえ細かいところでは職員の苦

労もあるということが現場に行ってみると理解できました。民間委託に進むとはいえこの微調整や工夫などは長年経験を積んだ人を現場に残すことが必要十分条件だというお話も聞きました。今回の議会では地元をはじめとする市民への説明責任と現場の体制についても少し議論を深めたいところです。

日本ハムへの申し入れ

2月23日



日本ハムの和歌山工場と大阪北工場が6月末で閉鎖すると1月25日付の新聞紙上で明らかにされました。そのことから日本ハムの従業員



全国的には景気が上向いて

いると言われていますが、和歌山は依然として厳しい状況

はじめて3名の職員さんで

対応してくれました。工場長

です。

名で申し入れに行っていました。

た。

はもちろがが続いています。新たな雇用のこのをどう生み出すかと言う努力と、関連も重要ですが、既存の企業会社も含の経済活動が企業の都合だけで進められるということでは地域経済なく、従業員や地域経済にもなどへの配慮してほしいという立場が少なから、藤井県議員、後市会議員影響が、小藪事務局長と4人で、予想され日本共産党県議団・市議団連名で申し入れに行っていました。

た。細かい点はまだ組合との交渉途中ということでしたが、私たちが最も危惧している従業員や関連会社の今後ということについては誠意を持って対応するということです。

生活相談日

毎週木曜日  
午後1時～5時  
鳴神の生活相談所  
にて  
475-8122



森下みちの元哉くん成長日記

おきくなあれ

中学校一年生最後のテストの最中です。小学校とは違い、勉強の身がクンと難しくなり鬼戦苦闘している元哉です。中学に入ったばかりの頃はテスト期間になるとつい口うるさくしていた母でしたが、一年も経つと我が子の状態に慣れ、半ば呆れ、一方で諦めも手伝って、今では口を出すことも減りました。中学生は心も身体も成長の目覚ましい時期です。それだけに迷いや失敗、後悔、悩みなどを

抱える時期でもあると言えます。勝ち組・負け組という考え方や、格差が広がっているといわれる時代にあって、今の子どもたちは生き辛さをより強く感じていると思われ、そんな時代だからこそ、何か大切などう生きるべきかをしっかりと考えることができ、たくましく生き抜いていって欲しいと願わずにはいられません。同時に私自身も親としてその姿を間接的に感じています。